

## 4 学習指導案の各項目の解説

### 1 対象 ・ 2 日時 ・ 3 場所

番号は様式例〔基本型〕  
に対応しています。

研究授業の実施概要として、学校名、指導者氏名、対象とする学年・学級・児童生徒数や、実施日時、場所等を明記します。校内の研究授業の場合には学校名を省く等、公開する対象によって、省略可能な項目もあります。

### 4 単元（題材）名 ・ 教材名

教材名とは、単元に含まれる教材の題名等です。単元名・教材名は、自校の年間指導計画に基づいて記入します。一般的には、教科書の文言を使って記入する場合がありますが、自校の年間指導計画に位置付けられていれば、独自の単元名を設定することも可能です。なお、教材名は、教科によって示されない場合があります。

単元名を設定する際には、「教材名」と混同しないようにすることが重要です。特に国語科では、文章教材の作品名をそのまま単元名としている例（「読んで考えたことを話し合おう」とするところを「ごんぎつね」としている。）が見受けられますので、留意する必要があります。なお、「特別の教科 道徳」では単元名を主題名としています。いずれも、学習指導案のタイトルとも言えるものです。学習活動のねらいや内容が一目で分かるように明記することが重要です。

さらに、教科にもよりますが、学習指導案を作成する上で、内容のまとめりや単元で指導する事項の内容を明らかにしておく必要があります。

### 5 単元について

この単元で、どのような資質・能力の育成を目指すのか、そのためにどのような学習活動を行うのか、単元全体のねらいや学習活動の概要を説明します。主に次のような内容で構成します。

- ① これまで児童生徒は、どのような学習をして、どのような資質・能力を身に付けてきたのか。（系統性）
- ② 本単元（当該の学年、指導時期）では、どのような資質・能力の育成を図ろうとしているのか。（単元の目標）
- ③ 本単元でねらいとする資質・能力を育成するために、どのような学習活動をどのような流れで行うのか。（指導と評価の計画）
- ④ 学習内容や教材の特性に関わって、特に留意すべきことは何か。（内容のまとめりの明確化又は本単元で扱う事項の明確化）
- ⑤ 本単元の学習で身に付けた資質・能力を、次へどのように活用し、発展させることができるようにするのか。（指導の見通し）

単元の目標や内容を考える際には、学習指導要領の該当箇所を確認し、それを根拠に具体化していく必要があります。また、学校の研究課題等に基づいた研究授業の場合は、上の内容に関連さ

せて、研究の主題や仮説等に触れておくことも必要です。

児童生徒の実態は、この項目に含めて記述します。その際には、学級や担当の児童生徒の一般的な様子(明るい・素直・仲がよい等)ではなく、本単元の目標や学習内容から見た現状や課題を具体的に記述します。例えば、「話し方を工夫して、自分の考えを話す。」というねらいを設定したとき、「日常的に朝のスピーチに取り組んでいるが、人前で自分の考えを話すことに苦手意識のある児童生徒が多い。」や「ペアで話したり聞いたりして交流する場を設定する。」「話す事柄をカードに書き出して話す順を並べ替える活動を行う。」等のように、児童生徒の実態と、それに基づいた指導を明確に示します。ただし、児童生徒の課題を記述する際には、個人情報保護の観点から、個人を特定できるような記述は避ける必要があります。特に、教育的支援や配慮を必要とする児童生徒について記述する時や、少人数の学級で個人が特定されやすい場合等は、十分に配慮した対応が求められます。さらに、ホームページ等 Web 上で学習指導案や研究資料を公開する際には、不特定多数の人々の目に触れることを想定して、十分な注意が必要です。

なお、児童生徒の実態については、例えば「児童生徒について」として、「単元について」とは別項目を設けて記述することもできます。

## 6 単元の目標

学習指導要領の目標や内容、児童生徒の実態及び前単元までの学習状況を踏まえて、この単元で、どのような資質・能力をどのような学習活動を通して育成するのかを、資質・能力の三つの柱ごとに、三文に分けて記述したり、資質・能力の三つの柱に沿って、一文程度で記述したりする方法があります。

なお、文末は、教科・領域の特性に応じて「～する。」「～できる。」「～できるようにする。」等、いくつかの形式が考えられます。いずれの場合でも、一つの学習指導案の中で混在しないよう、国立教育政策研究所の参考資料等を参照して、学校として統一した表現にすることが必要です。

## 7 単元の評価規準

目標の実現の状況を判断するよりどころとなる規準を作成します。各教科においては「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに記述します。

なお、文末は、児童生徒の学習活動の状況を示すことから、「知識・技能」の観点については、「～している。」「～できる。」等、「思考・判断・表現」の観点については「～している。」「～できる。」等、「主体的に学習に取り組む態度」の観点であれば「～しようとしている。」等とします。

## 8 指導と評価の計画

単元の目標を達成するために、どのような学習活動を展開するのか、観点別の学習状況についてどのような時期や場面で評価するのか、指導と評価の計画を一覧表にして示します。

### 次・時

単元の学習活動全体を、いくつかの単位時間ごとにひとまとまりのものとした区切りを「次」と呼びます(教科によって「小単元」と呼び、区切りだけを付けて名称を付けないこともあります。)。例えば、単元全体の導入に当たる部分を「第一次」、学

習活動の中心的な部分となる部分を「第二次」、学習成果を発表・交流したりする部分を「第三次」と設定する等が考えられます。

このようにして「次」を設定することで、指導者は、学習活動全体を見通した視点で指導に当たることができます。また、児童生徒にとっては、学習活動の節目を意識することで、この時間に学習していることが次にどのようにつながるのかという見通しをもつことができます。

#### ねらい・学習活動

一単位時間又は一次ごとのねらいと具体的な学習活動について児童生徒の立場から記述します。具体的な学習活動とは、何を、どのように学習するのかということであり、例えば「会話の内容を基に人物の気持ちを想像し、吹き出しに書き込む。」や「乗法の答えは、累加で求められることを理解し、図に表す。」等、児童生徒が実際に行う学習活動に即した表現にすることが大切です。教科によっては、主要な発問やゴールとなる「身に付けたい概念（結論）」等を併記する場合も考えられます。

#### 評価規準・評価方法

この欄には、指導過程に即して、一単位時間又は一次ごとに、児童生徒がどのような学習状況であれば「おおむね満足できる」状況であると判断するのか、そのよりどころとなる評価規準を評価の観点及び評価の方法と併せて記述します。児童生徒全員の学習状況を單元ごとに総括するために「記録に残す評価」については、指導と評価の計画のどの場面で行うかを適切に位置付け、明記するようにします。

## 9 本時の目標

この時間で、どのような資質・能力の育成を目指すのか、本時の目標を設定します。本時の目標は、「指導と評価の計画」の該当する時間との整合性にも留意する必要があります。「指導と評価の計画」を基にして、できるだけ一つの文にまとめるように簡潔に記述します。

## 10 本時の展開

一単位時間の詳細な学習指導計画です。児童生徒の学習活動と、指導者の指導の双方が具体的にイメージできるように、流れに沿って記述します。このとき、「本時の目標」（どのような資質・能力を育成するのか。）と、「学習活動」（どのような学習活動を行うのか。）、さらに、「学習評価」（どのような学習状況であれば目標が達成できたとするのか。）の三つが相互に関連し、そのつながりが明確になるように設定されていることが重要です。

#### めあて・ねらい・課題

児童生徒が主体的に学ぶために、本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示します。例えば、本時の目標が、「説明したい仕事内容を、相手に具体的に伝えるために写真を選び、写真と文章の構成を考える。」とすれば、児童生徒に提示する「めあて」等は、「リーフレットの写真を選び、写真と取材メモを合わせて伝えたいことを決めよう。」というようになります。

「めあて」等の提示は、授業の導入部分で単元の学習計画を確かめたり、前時の学習を振り返ったりする等の学習活動を通して行います。

#### 過程

一単位時間の授業をいくつかの分節に区切ったものです。一般的には、「導入」、

「展開」、「まとめ」の三つで組み立てる場合が多いです。「学習課題をつかむ」、「調べる」、「考えをまとめる」等、学校独自の区切り方や文言を設定する場合があります。

過程を設定する際には、児童生徒の立場から授業全体を見通して実際の学習活動の流れを想定することが大切です。また、それに即して、時間の目途を設定しておくことも重要です。指導者、児童生徒ともに、一単位時間の授業の流れをはっきりと知っておくことで、児童生徒自身が学習活動の流れを自覚的に捉え、見通しをもって主体的に学ぶことにつながるものと考えます。一般的な型に縛られず、学習活動の目的や内容に即して、学習活動の過程を柔軟に創意工夫することが大切です。

### 学習活動

本時の目標を達成するための学習活動について、児童生徒の立場から具体的に記述します。児童生徒が教師の説明や講義を聞いたり、個人やグループで活動に取り組んだり、学級全体で互いの考えを交流したりする等、いくつかの学習活動を組み合わせ構成します。児童生徒が実際に行う学習活動に即した表現にすることが大切です（「8 指導と評価の計画」の「ねらい・学習活動」も参考にしてください）。

### 学習形態

授業の中で、どのような学習集団を設定して学習を進めるのか、その形態を学習活動ごとに記述します。

児童生徒が主体的に学習活動に向かうためには、指導者の説明を一方向的に聞くだけでなく、児童生徒一人一人が主体的に活動する場面を設定することが重要です。そのためには、グループやペア、個別等、多様な学習集団を活用した学習形態を取り入れるようにします。ただし、多様な形態を設定することが、そのまま主体的な学習活動に直結するわけではありません。その形態で、何をどのような目的で行うのかを、児童生徒が具体的に理解できるようにするとともに、十分な活動時間を設定することや、児童生徒が指導者に頼らず自分の力で活動できるよう手順や進め方を事前に十分指導しておくこと等、ていねいな手立てを講じておくことが大切です。

### 指導上の留意点

指導者がどのような指導を行うのか、指導のポイントを記述します。本時の目標を達成するための手段や方法、工夫点等が具体的に想起できるような表現を心がけることが大切です。

なお、個に応じた指導についても、児童生徒の実態を想定して具体的な手立てを記述しておきます。教育的支援を必要とする児童生徒への配慮事項等も、この欄に記入します。

また、安全管理、教材・教具、準備・片付け等についても、必要なことをこの欄に記述します（本時の展開に「教材・教具」欄等を別に設けることもあります）。

### 評価規準・評価の観点・評価方法

この欄には、「おおむね満足できる」と判断される状況を示した「評価規準」と「評価の観点」に加えて「評価方法」も併せて記述します。その際、指導と評価の計画の評価規準との整合性に留意することが必要です。

なお、一単位時間の授業の中には、様々な学習内容が含まれていますので、どの学習活動を捉えて評価するのか、焦点化を図ることが重要です。

「評価方法」は、児童生徒のどの学習活動を対象として、どのような方法で評価するのかを記述します。ノート、ワークシート、学習カード等学習成果が客観的に残る資料を分析して評価する場合と、発言の内容、話合いの様子等を観察して評価する場合等があります。観察の場合は、児童生徒の学習状況が把握できるように、授業のどの場面で、何をポイントと

して観察するのかを明確にしておく必要があります。

また、この欄には、「十分満足できる」と判断される状況と、「努力を要する」状況への手立ても記述します。

「十分満足できる」と判断される状況は、評価規準に照らして学習の実現状況の程度から、その高まりや深まりが見られると判断される状況を想定します。その際、「より深く」や「より詳しく」等の抽象的な表現は避けて、評価規準に何が加われば、質的な高まりや深まりが見られる状況なのかを具体的に想定して記述するようにします。例えば、「『話すこと・聞くこと』において、相手に伝わるように行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。」という評価規準に対して、「行動したことや経験したことに基づいて、聞き手に与える印象や効果も考えながら、話す事柄の順序を考えている。」等が考えられます。

「努力を要する」状況への手立ては、本時の学習活動において評価規準を達成することが難しい児童生徒に対して、指導者がその時間内にどのような手立てを講じるのかを具体的に考えて記述します。学習課題について、どのようなつまづきが予想されるかを具体的に想定し、それに応じた適切な手立てを準備しておくことで、的確な指導を行うことができます。そのためには、「ノートの見直しをさせる。」等のように抽象的な内容にとどまらず、「ノートを見直して前時に解いた問題を思い出させる。」等、児童生徒の実際の学習活動につながる手立てにすることが、指導と評価の一体化を図る上で重要であると言えます。

なお、「十分満足できる」と判断される状況を「A」、「おおむね満足できる」状況を「B」、「努力を要する」状況を「C」等のように記号で表記することもあります。その際には、欄外に注記を付け足す等して、記号が表す意味に誤解が生じないように配慮することが求められます。

#### 参考図書・資料

- 『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）』（令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- 「学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）（高等学校編）」（令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成31年3月 文部科学省）

\* 上記の資料の一部は、文部科学省、国立教育政策研究所のホームページからダウンロードすることができます。